

中絶スル人ヲモ親ミ寄リ、親ヲ捨テ、モ其人ニシタシムノ風儀甚不可然ナリ、

〔日本鹿子十四〕同國○筑中名所之部

蘆屋

遠賀湊

チカ

前

新拾遺春のうたに素還法師

也、水ぐきの岡の湊と云も、右の遠賀と云所也、松原有之北は海なり、新拾遺春のうたに素還法師
水ぐきの岡の湊の浪の上にかずかき捨てかへるかりがね

内浦濱

是も岡の續き也、濱邊なり、此濱を行ば宗像へ出るなり、

宗像 此つゞきに生松原と云あり、當國第一と申、神の植給ふ松也といへり、北より西へ海邊な

り、東は山なり、宗像明神社有、神社の部にくはし、

桂鴻

宗像より南也、間ちかし、遠干鴻せ、神の代に夷國を玄たがひ給ひて、かつら嶽と云山にの

ぼりて、軍にはかつら浦との給ひしより、勝浦と云也、その時の楯ほこ今に岩になりてあり、神代
に放し給ふと云馬の牧有之たてさきの薬師と云も、右の岩のうへにたち給ふ也、

身の憂濱 ウキハマ かつら鴻より南也、西は海也、間三りのはまなり、

志加島 あかはた山 東は磯邊山につゝく也、海の中道と云もちかしはるぐと出たる島也、

文珠堂有、志賀より玄んくうの濱と云所まで三り也、拾遺戀の歌、

志賀の蟹の釣にともせるいざり火のほのかにいもを見るよしもがな
野古の島 志賀より未申のかた也

からどまりのこの浦浪た、ぬ日はあれども君を戀ぬ日はなし

香椎鴻 志賀より中間三り也、西は海、東は山也、宮有之、神社の部有之、たぐひなき景地也、金葉雜

のうたに、

ちはやぶるかしゐの宮の杉のはを二たびかざすわが君ぞきみ